

初級文法の運用のためのブラッシュアップ授業

—語の持つ文法情報を重視した文法指導—

三好 裕子

科目名：わかる文法：言葉の使い方から学ぶ文法 3-4

レベル：初級 1・2 / 中級 3・4・5 / 上級 6・7・8

履修者数：35名

1. 授業概要

1-1. 授業の目的

本授業の目的は、初級で学んだ文法を、適切な運用に繋がるようにブラッシュアップすることである。一般に、初級で基本的文法項目の学習を終えていても、正確な文を作るには理解が不十分な部分や、誤った理解をしている部分がある場合が多い。本授業は、初級文法の正確な運用のために不足している知識を補うこと、そして、誤って理解している点に気づかせ、修正を促すことにより、学習者が自分の言いたいことを言うために必要な文法の知識を身につけることを目指すものである。

1-2. 授業内容

授業は、週1コマで、学習者にとって難しい文法項目を、取り上げ、オリジナルの授業シートを用いて行った。扱った項目は、①助詞、②自動詞・他動詞、③可能表現、④受身・使役、⑤授受表現、⑥「～ている」、⑦時制、⑧接続詞、⑨「と・ば・たら・なら」である。

指導方針として、本授業では、語の持つ文法情報を重視した。語の持つ文法情報とは、たとえば、動詞の取る構文の情報や、可能形になり得る動詞か、副詞としての使用が可能

な名詞か、といった情報で、文法教育と語彙教育の境界に位置するものである。このような語の持つ文法情報を積極的に取り上げ指導した。ま

- ◆ どちらが正しいでしょうか？
1. このかばんは大きいから、たくさん荷物が { 入る・入れる }。
 2. この映画は人気がないから、ぎりぎりに行っても { 入る・入れる } と思う。
 3. 時計が壊れて、{ 動かなく・動けなく } になった。
 4. (私は) お腹がすきすぎて、{ 動きません・動けません }。
 5. ペットボトルのキャップが、かたくて { あかない・あけない }。
 6. この問題は難しいので、私には { 分からない・分れない }。

図1 問題例① 可能表現の問題 *ルビは紙面の都合により削除

- ◆ 「～に～を／～を～に＋V」のパターンが使える動詞はどれですか？
使えるものは、そのパターンで文を作ってみましょう。

届ける あげる 教える 飾る 壊れる 建てる 捨てる 消える
会う 頼む 相談する 拡大する 変える 入れる 着く 乗る

図2 問題例② 助詞の問題 *ルビは紙面の都合により削除

た、授業では、学習者の気づきを促すため、学習者が犯しがちな誤りを否定証拠として示し、考えさせることを多く行うようにした。

授業シートでは、誤りやすい点についての問題（問題例：図1, 2）を出題し、その答えから規則の理解を促し、練習問題によって理解を確認させるようにした。授業は、3, 4人のグループでシートの問題について考えさせた後に、解答・解説をする形で進めた。

宿題は、目標の文法項目が使われる可能性の高いテーマについての100字以上の作文、および、学習内容のまとめと質問を書くこととした。宿題の作文で誤りが多かった点や質問のあった点について、翌週に説明した。また、復習のためのクイズを翌週に実施した。

評価は、期末試験と復習クイズ、宿題の提出と授業への参加状況によって行った。

2. 授業の実際

2-1. クラスの様子

参加者は非常に熱心で、授業シートの問題についての話し合いも活発に行われることが多かった。答えについての仮説を出し合い議論する様子や、正解することができ喜ぶ様子が見られた。理解できた学生、学習の進んでいる学生が、理解できていない学生に教える様子も見られた。また、授業では宿題の作文での誤りも取り上げ、どこが誤りか、どう直せばいいのかを考えさせたが、参加者は関心を持って積極的に取り組んでいた。

2-2. 授業の理解度

授業の理解度を知るため、期末試験と復習クイズの結果について正答率を算出した。期末試験は、①目標の文法項目についての選択問題、②助詞の空所補充問題、③接続詞の選択問題、④テンス・アスペクトに関する語の変形問題で、平均点は74.7点であった。誤りの多かった問題（正答率60%以下）は、移動の場所を示す「を」などの助詞問題、接続詞の問題、「～ていた」「～である」の形への変形問題であった。毎回の復習クイズは、正答率が概ね80%を超えていたが、接続詞は71.2%、助詞（3回実施中の第2回）は79.3%と比較的成績が低かった。これらの項目は、授業内容の理解度が高くなかったことが疑われる。また、復習クイズで正答率の低かった項目は期末試験でも正答率が低い傾向が見られ、復習クイズでの誤りが学びにあまり結びついていなかったことがうかがわれた。

3. まとめと今後の課題

初級文法のブラッシュアップを目的に、語の持つ文法情報を重視して指導する授業を行った。学習者が誤りやすい点を問題にし、それについてグループで話し合う形式で進めたところ、活発な授業活動を実現することができた。

今後の課題として、接続詞や助詞等、授業の理解が十分でなかった項目についての理解度を上げること、復習クイズでの誤りが学びに繋がるようにすべきことがあると思われた。

（みよし ゆうこ，早稲田大学日本語教育研究センター）